

女子青年層の超常現象受容傾向と マスメディア環境

高橋 啓介

Sympathy of Young Females with Paranormal Phenomena
in Relation to the Mass-media

Takahashi Keisuke

問 題

日本が近代国家としては歴史的に類例を見ない程の豊かさを経験し、その限界に達しようとしていた1980年代の末期と、その限界が明白となった1990年代の初頭に、この間の状況の社会・文化的意味を決定づける2つの大事件が日本社会を震撼とさせた。青年による連続幼女誘拐殺人事件と新・新宗教団体による「地下鉄サリン事件」である。これら2つの事件は、常識的な日本人の理解をはるかに超えるもので、日本の思想界・言論界は、一時的にパニック状態に陥った。心理学や精神病理学の世界でもこれらの事件が直接的・間接的な契機となり、現代社会の背後に潜む社会病理の問題や、そうした社会状況下での個人の精神病理の問題がクローズ・アップされた。前者では、情報過剰社会が人格形成に及ぼす問題（奥野，1990；町沢，1992など）、情報過剰社会が人間のコミュニケーションや情報行動に及ぼす問題（辻，1985）、後者では、高度消費社会が、人格形成に及ぼす問題（高橋，1991；鳥山，1988など）、などについて示唆に富んだ発言がなされている。さらにこれらの問題は、個別化・具体化され、血液型性格判断ブームの背後にある心理的メカニズムの問題（大村，1990；詫摩・松井，1995など）、カルト・マインド・コントロールの社会心理学的分析（西田，1995）、新・新宗教ブームの分析（西山，1991）、超常現象ブームの背景の分析（美甘ら，1992；三井，1993）など、多くの優れた研究がなされている。

しかし、これらの研究の中で十分に検討されていない問題がある。それは、マスメディア、特に視聴覚メディアが作り出す情報環境が上記の社会病理や心理的メカニズムにどう影響しているかという問題である。高度情報化社会の成立は、近年の視聴覚メディアの技術的進歩に大きく依存しており、我々の日常生活における情報行動もその主要な部分は、視聴覚メディアに依存している。こうした状況の中で、かつてAdorno（1954）や大宅（1957）（桜井，1992によ

る)が展開した一方的なメディア批判では、問題の本質が見失われてしまう。急速な技術進歩の結果、情報リテラシーの確立が不十分な状態での高度な視聴覚メディアの及ぼす効果について、特に、それがもたらす仮想現実の効果について、その肯定的側面と否定的側面とを分析することが必要であろう。そして、こうした視点からの研究は、未だほとんどなされていないのが現状なのである(桜井, 1994)。

今日問題とされている、超常現象に対する青年層の親和傾向も、こうしたマスメディアによる情報環境が影響している可能性が十分に考えられる。たとえば、美甘ら(1992)は、日本の青年層のオカルト、宗教ブームは、若者特有の好奇心の象徴ではなく、潜在的な日本人の心理傾向である可能性について指摘しており、そうした潜在傾向が顕在化した背景を検討する必要性について論じている。その背景の1つにマスメディア環境を挙げることは、十分な妥当性を有するであろう。

そこで本研究では、青年層の標本として女子短期大学生を対象として、彼女たちの超常現象に対する親和傾向を三井(1993)を参考にして分析し、さらに、超常現象に関連する事件として具体的事例を取り上げて、それに対する女子青年層の評価・態度に及ぼすマスメディアによる情報環境の影響について検討する。

方 法

調査対象

女子青年層の標本集団として、18歳～20歳の女子短期大学生(平均年齢19.0歳)を選定した。報告者が愛知淑徳短期大学で担当している「ビジュアルコミュニケーション論」および「コミュニケーション論特殊演習」の受講者を調査対象集団とした。

調査実施日時

1996年1月18日の報告者が担当する科目の講義時間。実施に要した時間は約20分であった。

調査形態

質問紙による自記式集合調査であった。

質問紙

本調査で作成した質問紙は、三井(1993)を参考として作成した。構成は以下に示す通り。なお、巻末に資料として、使用した質問紙を添付した。

質問項目

- 1) フェイス項目：性別、年齢、専攻、居住形態
- 2) メディア環境に関する項目：テレビ、雑誌への接触度および、接触の様式について

3) 超常現象に対する関心度

- ① 超常現象全般に対する関心度を「非常にある－全くない」の4段階で評定させた。
- ② 超常現象に関連する具体的項目に対する確信度を「信じる－信じない」の4段階で評定させた。
- ③ 超常現象に関連する具体的項目に対する経験について「はい／いいえ」の2件法で回答させた。

4) 「オウム真理教事件」に対する態度および、関連する報道に対する評価

- ① 事件への関心度を「かなりある－全くない」の4段階で評定させた。
- ② 事件報道への接触度を「積極的に見たり読んだりした－全く見たり読んだりしなかった」の4段階で評定させた。
- ③ 事件報道に対する種々の評価10項目に対する同調度を「そう思う－そう思わない」の4段階で評定させた。
- ④ 「オウム真理教」に対する印象を表す8項目について、「そう思う－そう思わない」の4段階で評定させた。さらに、これらの評定が報道の影響をどの程度受けているかについての自己評価を、「かなり影響されている－全く影響されていない」の4段階で評定させた。

5) 「社会観」「科学観」「将来展望」に関する項目

超常現象に対する親和傾向の背後には、広い意味での現代社会に対する不安感、閉塞感が関与していることが示唆されている（汐見，1988；妹尾，1991）。そこでこうした不安感や閉塞感を「社会観」「科学観」「自己の将来の展望（将来展望）」の3側面から検討することにした。具体的には各側面に関する具体的事例について、肯定的内容のものと否定的内容のものを各2項目ずつ挙げ、それらに対する同調度を「そう思う－そう思わない」の4段階で評定させた。

結果と考察

(1) データの集計および分析

データの集計と分析には、統計解析ソフト HALBAU 3.3, HALBAU 4.0（現代数学社），および SPSS for Windows 6.1（SPSS ジャパン）を用いた。

(2) 各変数の特徴

1) 調査対象者のマスメディア環境について

調査対象者の1日の平均テレビ視聴時間は116.54分であった。1990年にNHKが10歳以上の対象者に実施した調査では、1日平均3時間強であったのに比べ、60分程度低い値を示した。しかし、上記のNHKの調査による青少年の1日の平均在宅時間、450分に対して、調査対象

者の平均テレビ視聴時間は約25%を占めており、短期大学生という調査対象者の属性を考慮すると、この値は、テレビ視聴が彼女たちの日常生活において、主たる項目の1つになっていることを示唆するものであると考えられる。

全調査対象者中、全くテレビ視聴をしない者は1名であり、逆に3名の者が、5時間のテレビ視聴（1990年NHK調査による平均在宅時間の約67%）を回答した。

視聴率の高いテレビ番組の種別について検討するために、視聴率の高い番組種別に関する選択項目を「報道関係（報道・情報・ワイドショー・ドキュメンタリー）」「趣味（スポーツ・音楽）」「娯楽（バラエティー・クイズ）」「その他」に再カテゴリ化し、各カテゴリの選択度数を求め図1に示した。図1によると、高視聴の番組種別の選択度に有意差は認められなかった。

次に、印刷メディアとの接触の特徴を検討するために、比較的定期的に購読する雑誌の有無について集計したところ、調査対象者の62.3%の者が、定期的に読む雑誌があると回答した。そこで、その雑誌の種別について検討したところ、図2に示す結果が得られた。

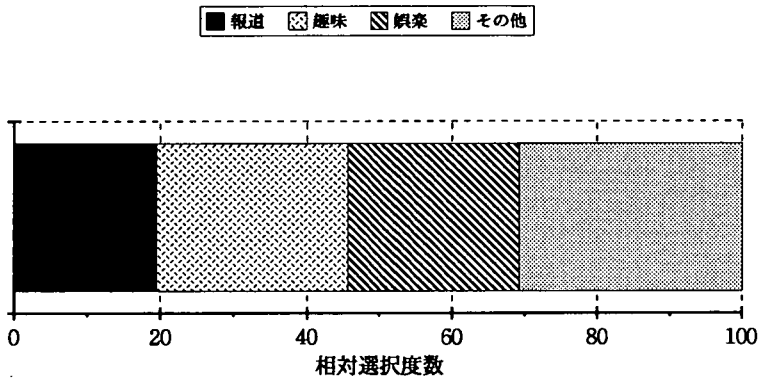


図1 高視聴テレビ番組の種別の相対選択度数

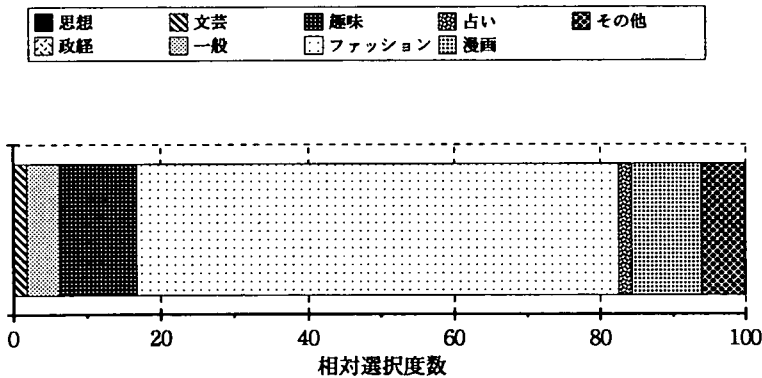


図2 高頻度購読雑誌の種別の相対選択度数

ファッション関係の雑誌の購読率が最も高く、調査対象者の属性に見合った対象への関心が高いことが確認された。「占い」の雑誌の選択率は低く、一般に言われるような、超常現象に対する親和傾向を直接的に反映する雑誌の選択傾向は認められなかったが、「ファッション雑誌」では「占い」は常に好感度の高い記事であり、「占い」特集号が年に数回企画され、それが高い支持を得ている。このことを考慮に入ると、「占い」を中心とした超常現象に関わる事項は、女子青年層に日常的なものとして浸透している可能性がある。

雑誌種別間で選択度数について χ^2 検定を行ったところ、選択率に有意差が認められた ($\chi^2(8) = 313.873, p < .001$)。

2) 「社会観」「科学観」「将来展望」の特徴について

先述の通り、青年層の超常現象に対する親和傾向の背後には、将来の展望を持ちがたい、社会の複雑性、閉塞性の認識が関与している可能性が指摘されている。本研究では青年層のそうした認識を「社会観」「科学観」「将来展望」の3側面から測定した。各側面の事例に対する同意度を図3に示した。回答の選択度数は χ^2 検定の結果、全ての事例において0.1%水準で有意

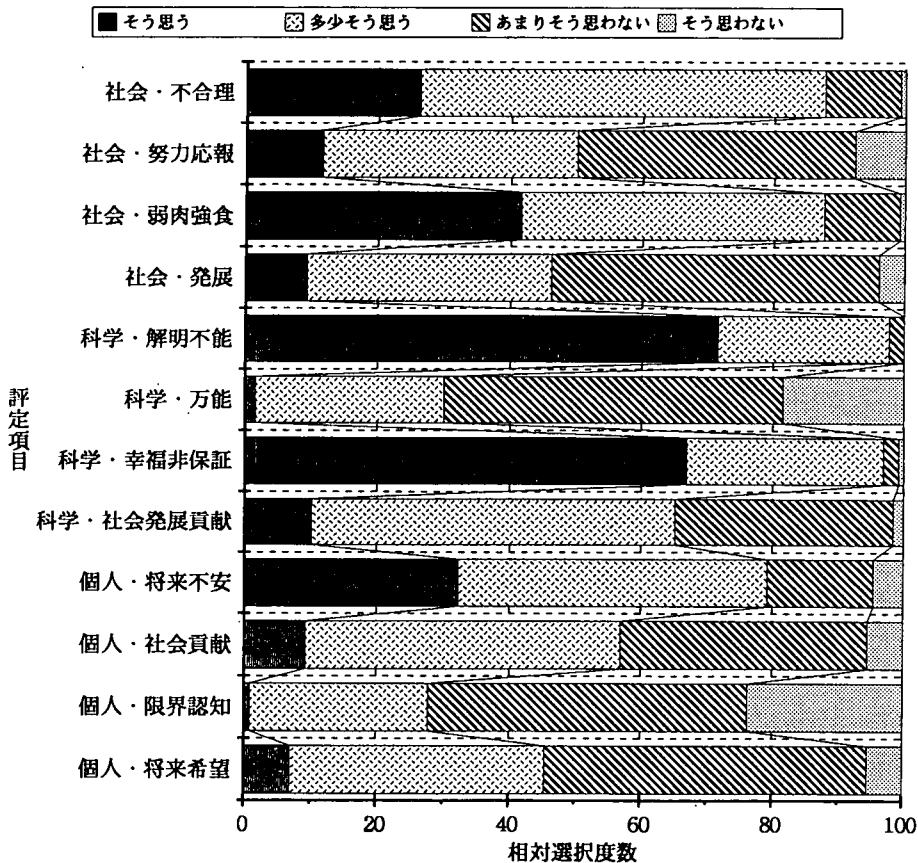


図3 「社会観」「科学観」「将来展望」の各質問項目に対する回答の相対選択度数

差が認められた。いずれの側面においても、否定的な内容の事例に対しては、同意度が高く、肯定的内容の事例に対しては、同意度が低い傾向にあることが認められた。そこで表1に示した通り、各側面の事例について、肯定的内容の事例の評定値と否定的内容の事例の評定値との平均評定値を算出し、事例内容間でt検定を行ったところ、「社会観」($t(258)=9.469, p<.001$)、「科学観」($t(257)=22.330, p<.001$)、「全体」($t(257)=14.619, p<.001$)において有意に否定的内容の事例に対する同意度が高いことが見いだされた。「将来展望」については、有意差は認められなかった。

「社会観」が否定的認知に偏っているのは、最近の社会情勢（たとえば、新・新宗教関連事件、住専問題、HIV問題、就職難、など）が青年層にとっても楽観視できないものであるという認識を生んでいることを示唆していると考えられる。

「科学観」は、否定的な認知が最も高かったが、これは主に、科学の万能性に対する不信・疑問によるものであり、社会の発展に寄与する科学の役割については十分な認知が成立している。科学に対する今日の状況は、環境問題を中心として、超え難い根本的な危機に直面している一方で、我々の生活は科学なしでは、その物質的豊かさを維持することができず、また、科学の進歩が我々の日常生活の利便性を確実に向上させてもいる、というものであろう。したがって、今日の「科学観」として妥当で現実的な態度は、科学の肯定的、否定的な両側面を認識することであると考えられる。こうした点で、本研究の調査対象者の「科学観」は、単独で検討した場合、今日の青年層の科学観としては、顕著な問題性を内包するものではないと判断できる。

表1 「社会観」「科学観」「将来展望」の肯定的項目および否定的項目に対する平均評定値

	肯定的項目	否定的項目
社会観	2.53 (.82)	3.21 (.53)
科学観	2.57 (.36)	3.66 (.42)
自己将来展望	2.54 (.55)	2.56 (.54)
全体	2.55 (.37)	3.21 (.35)

() 内はSD

3) 超常現象の受容傾向の分析

① 超常現象への関心

超常現象に対する関心度の平均評定値は2.69 (SD=.66) で、中性的態度が確認された。図4に、超常現象に対する関心度の回答の選択度数を示した。図4によると、「多少関心がある」が59.2%で選択度数が有意に高く ($\chi^2(3)=78.868, p<.001$), 「非常に関心がある」の6.9%を加えると、67.1%の調査対象者が超常現象に対して何らかの関心を抱いていることが示された。三井(1993)が実施した調査における同様の調査項目に対する回答で得られた、71%の調査対象者が超常現象に関心を抱いているとの所見とはほぼ同様の結果となった。

次に超常現象に関連する各事例の存在に対する確信度の回答の選択度数を図5に示した。

χ^2 検定の結果、全ての事例で回答の選択度数に0.1%水準の有意差が認められた。

「前世」を除く全ての事例で、「信じる」「多少は信じる」を合計した、事例の存在を信じる者が調査対象者の50%を超えた。存在の確信度が最も高かったのは「デジャヴ」、次いで「運命」「占い」であった。逆に、「信じない」の回答率が高かったのは「幽体離脱」であった。「呪い・祟り」「死後の世界」「前世」「靈感・霊能者」の項目では約半数の者が「多少信じる」と回答し、約4割の者が「信じない」と回答しており、態度が2分された。「UFO」は回答が分散した。

以上の超常現象に対する各事例について、各々の回答に基づいて、主因子解因子分析を行い、関連性の高い項目を因子にまとめた。表2に主因子解因子分析の結果を示す。その結果、3因子が抽出され、第1因子から第3因子をそれぞれ「異界肯定因子」、「超常力肯定因子」、「未来予測肯定因子」と命名した。なお、項目中、「幽体離脱」と「UFO」はどの因子にも分類できなかったため、因子分析の対象から除外した。

各因子に含まれる事例の平均評定値を算出したところ、「異界肯定因子」は2.30 (SD=.74), 「超常力肯定因子」は2.52 (SD=.67), 「未来予測肯定因子」は2.93 (SD=.64) であった。すなわち、「異界」、「超常力の」存在については、否定的な回答が多く、「未来予測」の可能性

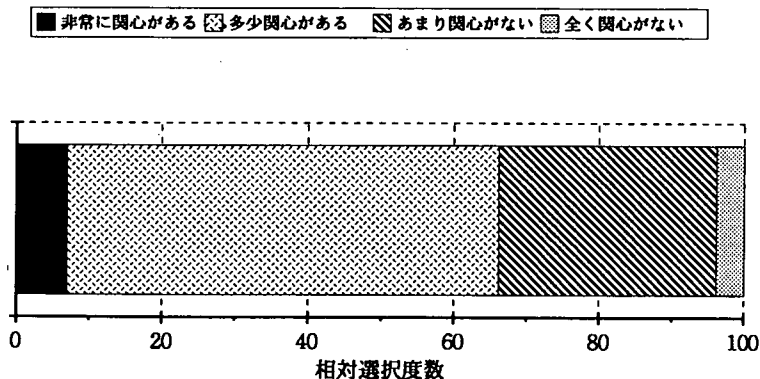


図4 超常現象への関心度に関する回答の相対選択度数

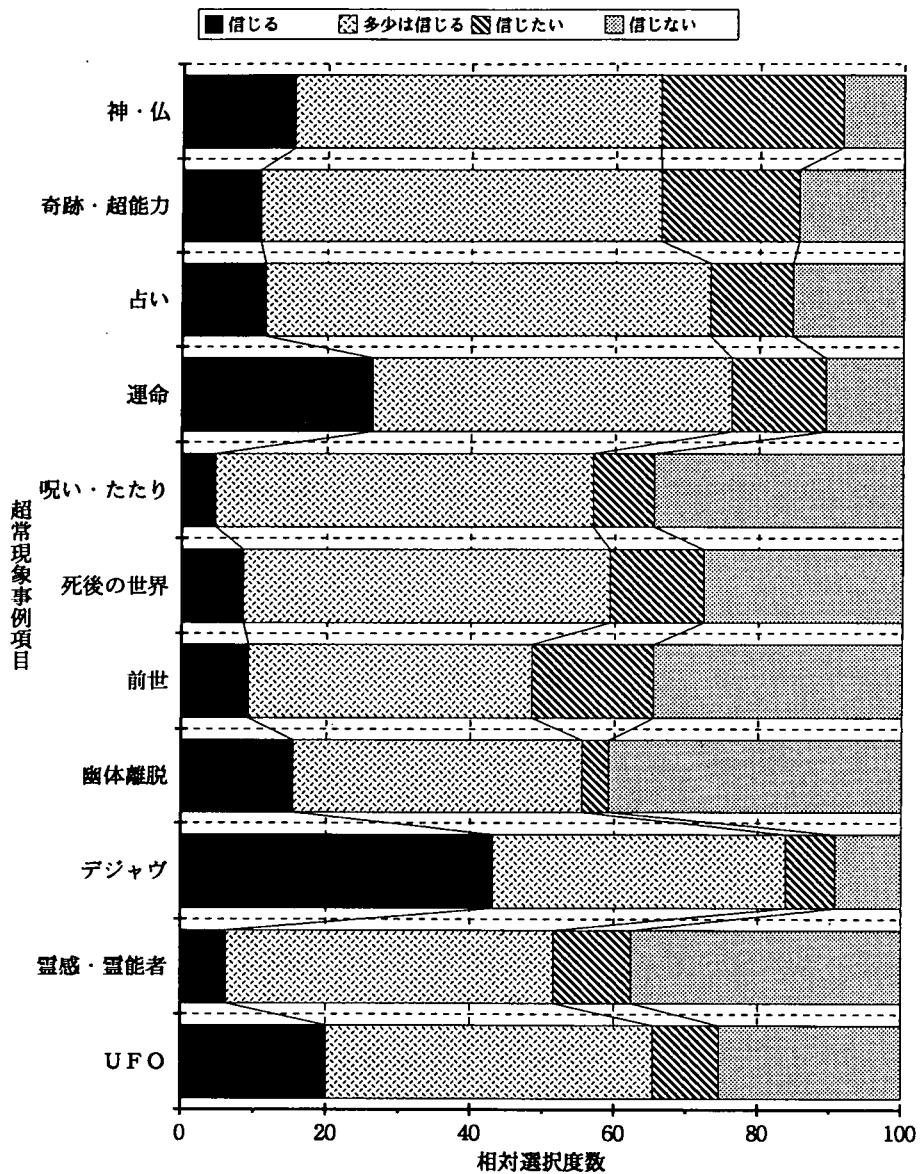


図5 超常現象関連事例の存在に対する確信度の回答の相対選択度数

については肯定的な回答が多かったことが示され、「死後の世界」「前世」「幽体離脱」の存在、「神・仏」「奇跡・超能力」「靈感・霊能者」の存在については、不信、あるいは懐疑を抱いている者が多く、「占い」「運命」「デジャヴ」の存在やその効力については、信じる者が多いという傾向にあることが見いだされた。

表2 超常現象の存在に対する確信度に関する事例項目の主因子解因子分析の結果
(バリマックス回転後)

	第1因子	第2因子	第3因子
神・仏	—	-.5186	—
奇跡・超能力	—	-.5178	—
占い	—	—	.5955
運命	—	—	.4069
呪い・たたり	-.4376	—	—
死後の世界	-.5951	—	—
前世	-.5362	—	—
デジャヴ	—	—	.3872
霊感・霊能者	—	-.4901	—
寄与率	11.30	10.43	10.28
cronbach α	.59	.59	.54

② 超常現象体験の有無

超常現象に関連する事例の体験の有無の回答を図6に示した。 χ^2 検定の結果、「金縛り」を除く全ての事例で、回答の選択度数に5%水準の有意差が認められた。図6によると、80%以上の調査対象者が「体験あり」の回答をしたのは、「お守りの所有」「願い事・祈り」「おまじない」であった。これらの事例は、旧来の俗信に関する一般的事例であって、現代の若者に特徴的なものとは考えられない。他方、80%以上の調査対象者が「体験なし」の回答をしたのは、「虫の知らせ」「幽体離脱」「予言・心霊本購読」「宗教勧誘」「友人の宗教信者」「自己開発セミナー参加」であった。これらの所見から、一般に論じられるような超常現象体験に対する感応力が、今日の若者に特に高いとは考えられない。

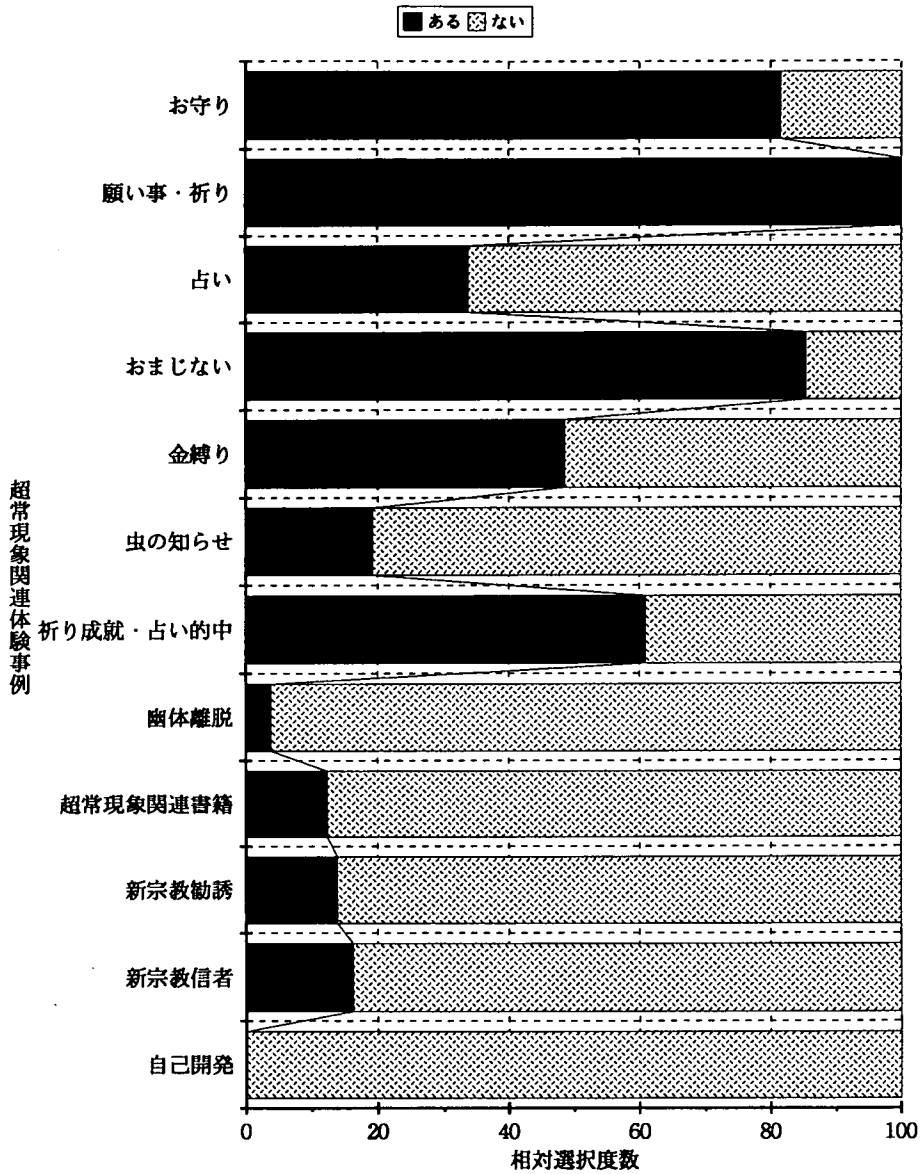


図6 超常現象関連事例の体験の有無の相対度数

4) 「オウム真理教事件」への関心・評価

① 「オウム真理教事件」への関心度および関連情報接触度

図7に「オウム真理教事件」に対する関心度の回答の選択度数を示した。「多少関心がある」の選択度数が有意に高かった ($\chi^2(3)=72.743, p<.001$)。「かなり関心がある」「多少関心がある」を合わせて、77.7%の調査対象者が「オウム真理教」事件に関心を持っていることが示された。政治・社会・文化を巻き込んだ重大事件であるので、この結果はきわめて常識的な反

応を反映したものだと考えられる。

次に「オウム真理教事件」関連報道への接触度の回答の選択度数を図8に示した。「多少は見たり読んだりした」の選択度数が有意に高かった ($\chi^2(3) = 118.661, p < .001$)。「積極的に見たり読んだりした」と「多少は見たり読んだりした」を合わせると、事件関連報道への接触度が比較的高かったと自覚しているものが全調査対象者の89.3%を占めた。このことは、「事件」への関心の高さを示すと同時に、間接的にはであるが、この間、マスメディアが大量に関連情報を積極的に発信したことを示唆している。

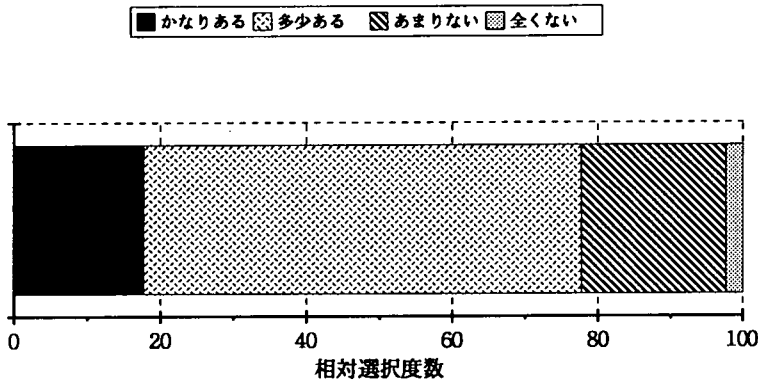


図7 「オウム真理教事件」に対する関心度の回答の相対選択度数

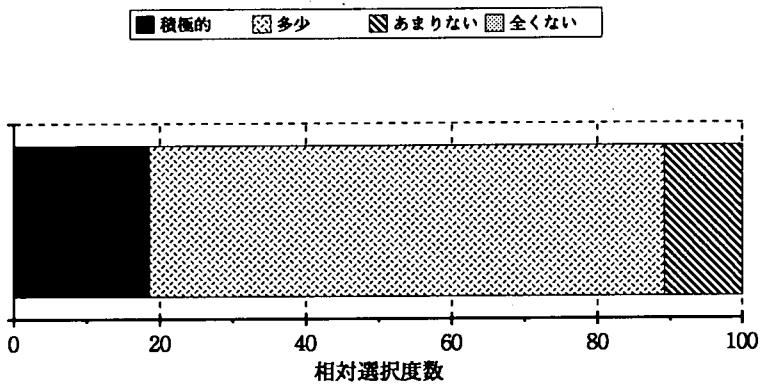


図8 「オウム真理教事件」に関連した情報への接触度に関する回答の相対選択度数

② 「オウム真理教」に対する評価

図9に「オウム真理教」に対する評価の回答の選択度数を示した。「どうでも良い」では、10%水準で、他の項目では0.1%水準で、選択度数間に有意差が認められた。さらに、評価項目を肯定的内容の項目と否定的内容の項目とに分類し、それぞれの平均評定値を算出し、表3に示した。両評定値間でt検定を行ったところ、否定的内容の項目の平均評定値が、肯定的内容の

平均評定値より有意に高いことが見いだされた ($t(258)=8.089, p<.001$)。

図9および表3によると、全体的に否定的な評価が一様になされていることがわかる。しかし、「ばかばかしい」「どうでも良い」といった、重大な社会的事件であるにも関わらず無関心

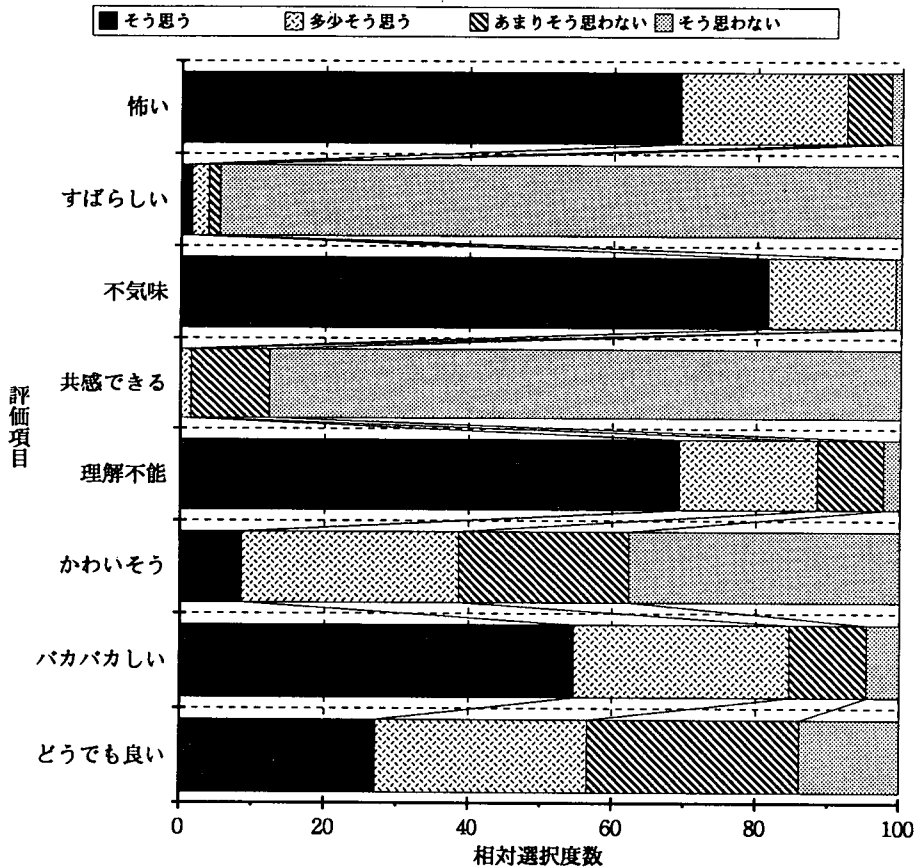


図9 「オウム真理教」に対する評価項目の回答の相対選択度数

表3 「オウム真理教」に対する肯定的評価項目と否定的評価項目の平均評定値

肯定的項目 (3組)	否定的項目 (7組)
2.32	2.85
(.55)	(.50)

()内はSD

さを反映する可能性のある項目に対する同意も高い回答率を示した。これは、過熱する信頼性の低い報道によって、結果的に無関心層が形成されたのか、受け手としての未成熟さが反映されたものであるかが重大な問題であるが、本研究の結果にはこの点について明確な考察を導く資料が不足している。今後、こうした視点に基づいた検討を進める必要がある。

③ 「オウム真理教事件」報道に対する評価と報道による影響の自覚

図10に「オウム真理教事件」関連報道に対する評価項目の回答の選択度数を示した。全ての項目において回答の度数間に0.1%での有意差が認められた。

図10によると、「オウム真理教事件」に対する報道のあり方に対して、全体として否定的な評価がなされていることが示された。特に「過熱」「混乱」「恐怖煽動」「社会不安増大」の各項目の同意度が高く、「正確・信頼」の項目の同意度が低かった。報道姿勢や報道の目的に対する不信・懐疑が青年層の視聴者に強く存在することを示唆している。これは、事件関連報道がワイドショーという、今日では芸能関係のゴシップを主として扱う、報道番組としては既に

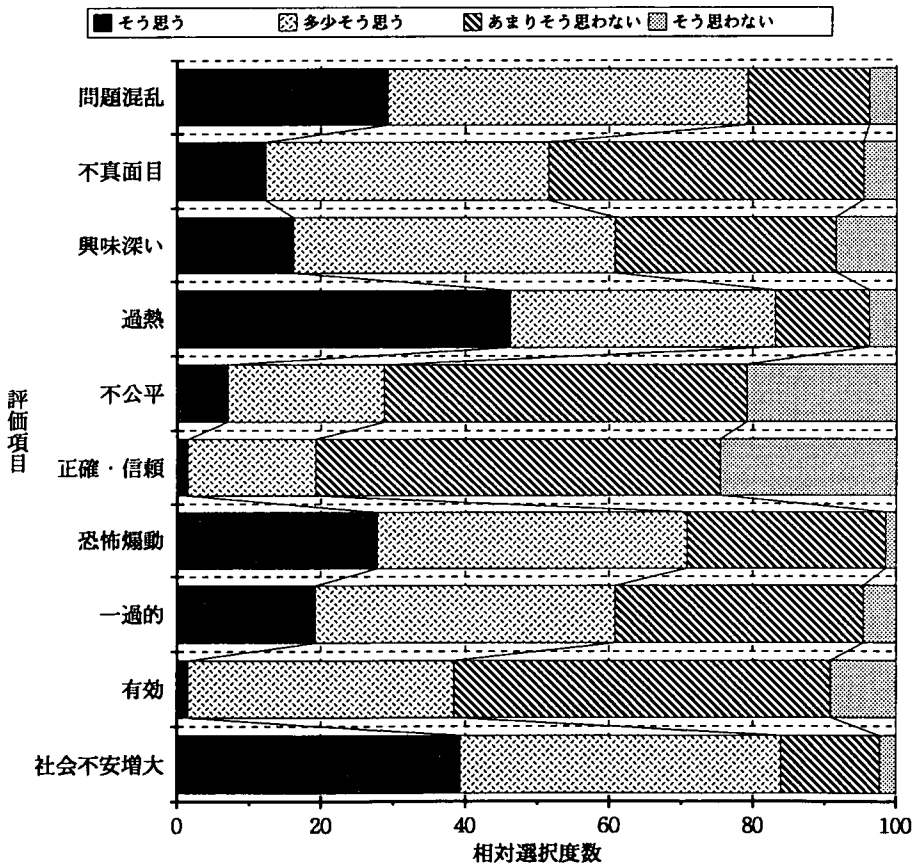


図10 「オウム真理教事件」報道に対する評価項目の回答の相対選択度数

信頼性の失われた番組によって多く扱われたこと、さらに報道各社が曖昧な同一情報を同一時間帯で発信し、いわゆる「視聴率戦争」の材料として「オウム真理教事件」を扱おうとする態度が明白であったことが、上記の報道に対する評価を導いたのだと考えられる。

こうした報道に対する評価は、報道一般に対する評価・態度を強く反映するものであるか、「オウム真理教事件」報道特有の傾向であるかが、マスメディアの問題を検討する上で重要な視点であると考えられ、今後こうした問題点についても検討を進める必要がある。

次に、②で検討した「オウム真理教」に対する評価が報道の影響をどの程度受けた結果であるかに対する自己評価について検討する。図11に「オウム真理教」評価に対する、報道の影響に関する自己評価の回答の選択度数を示した。図11によると、自分の「オウム真理教」に対する評価がマスメディアの情報の影響下にあったことを自覚している調査対象者が90%であることが示された($\chi^2(3) = 65.994, p < .001$)。社会的事象に対する認識がマスメディアの情報によって影響されているという自覚が成立していることは、今日の高度情報社会に適應して生活するためには重要な能力であり、その点で、本研究の調査対象者の多くは、自己のメディア環境・情報環境に対して、客観的で健全な認識を成立させていることが示された。しかし他方、図9に示した「オウム真理教」に対する評価の特性を考慮すると、マスメディアが情報の受け手の判断そのものに対して介入しつつあることを示す所見でもあり、青年層を取りまくメディア環境・情報環境が危険な状況であるという、メディアそのものに対する問題点を示唆する結果でもある。

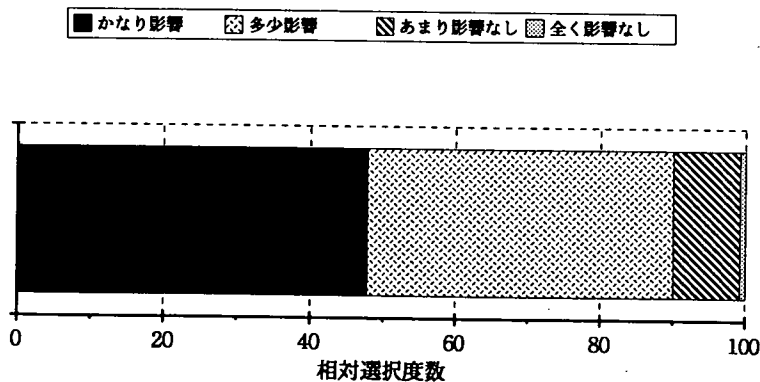


図11 「オウム真理教」に対する評価へのメディア情報の影響に関する自己評価の回答の相対選択度数

(2) 変数間の関係

1) 「社会観」「科学観」「将来展望」と超常現象受容傾向との関係

「社会観」「科学観」「将来展望」に対する認識が超常現象に対する関心の各因子とどのような関係にあるのかについて、超常現象に対する関心の各因子の平均評定値を被説明変数とし、

日常的事象への認識の平均評定値を説明変数として重回帰分析を行ったところ、「異界肯定因子」に対しては、科学に対する肯定的態度 ($\beta = .20436$, $p < .05$), 個人生活に対する肯定的態度 ($\beta = .16933$, $p < .05$), 科学に対する否定的態度 ($\beta = .15314$, $p < .10$) の3項目が説明変数として有意であることが見いだされた。「異界肯定因子」は negative な score であったので、上記の結果は、異界の存在を否定する傾向は、科学に対して過度の悲観も盲信もなく、科学の肯定的側面と否定的側面とを現実的に認識しており、さらに、自己の将来について、建設的に考えられる健全な認識と関係していることを示している。このことは視点を逆転させると、科学の社会的側面に対する正しい認識を持たず、徒に自己の将来に不安を感じる傾向のある者が、異界の存在を肯定的に受容する傾向にあることを示唆している。

「超常力肯定因子」に対しては、個人生活に対する否定的認識 ($\beta = -.14493$, $p < .10$) と科学に対する肯定的認識 ($\beta = .16205$, $p < .15$) が説明変数として有意であることが見いだされた。「超常力肯定因子」は negative な score であったので、上記の結果は、自分の将来を楽観視するわけではないが、過度に悲観的になるのではなく、科学の肯定的側面を積極的に評価する傾向が、超常力の存在を否定する傾向と関係していることを示している。科学に対する認識は正確ではないが、その社会的側面を肯定する態度が超常現象の否定に関連していることを示唆する結果と考えられる。

「未来予知肯定因子」に対しては、社会に対する肯定的態度 ($\beta = .21927$, $p < .05$), 科学に対する否定的態度 ($\beta = .16205$, $p < .10$) が説明変数として有意であることが見いだされた。この因子の「未来予知」は「占い」などの科学的根拠の希薄な事象を指している。したがって、このことは社会に対する楽観的な認識と科学に対する不信とが、非科学的方法による未来予知の可能性を肯定する態度と関連していることを示唆している。

2) 「社会観」「科学観」「将来展望」と超常現象への関心度との関係

「社会観」「科学観」「将来展望」に対する認識が超常現象に対する全体的関心とどのような関係にあるのかについて、超常現象に対する関心度の平均評定値を被説明変数とし、日常的事象への認識の平均評定値を説明変数として重回帰分析を行ったところ、社会に対する否定的態度のみが説明変数として有意であることが見いだされた ($\beta = .15122$, $p < .10$)。このことは、社会に対する不満、不信感が超常現象に対する関心と関係していることを示唆している。

3) 「オウム真理教事件」に対する関心と関連情報接触度との関係

「オウム真理教事件」に対する関心度の平均評定値と、「オウム真理教事件」関連報道への接触度に対する平均評定値との関係について、ピアソンの相関係数を算出し、無相関検定を行ったところ、両変数間に有意な正の相関が見いだされた ($r(128) = .584$, $p < .001$)。これは、極めて常識的な結果ではあるが、事件への関心度の高い者ほど、関連報道との接触に積極的であったことを示している。

4) 「社会観」「科学観」「将来展望」と「オウム真理教事件」に対する関心度との関係

「オウム真理教事件」に対する関心度の平均評定値を被説明変数とし、社会・科学・将来展望に関する日常的事象に対する認識の平均評定値を説明変数とした重回帰分析を行ったところ、社会に対する否定的認識 ($\beta = .19197$, $p < .05$), 社会に対する肯定的認識 ($\beta = .18094$, $p < .05$), 自己の将来に対する肯定的認識 ($\beta = -.15103$, $p < .10$) が、説明変数として有意であることが見いだされた。このことは、社会に対する認識の混乱と自己の将来に対する不安とが「オウム真理教事件」への関心と関連していることを示しているが、「オウム真理教事件」がこうした社会不安を生み出した可能性も否定できない。

討 論

(1) 女子青年層の超常現象親和傾向について

本研究で実施した調査の結果、短期大学に在学する女子青年層の超常現象に対する関心度は、他の先行調査(汐見, 1988; 三井, 1993) とほぼ同様の程度であり、比較的高い関心が持たれていることが見いだされた。その関心の内容は、「神・仏」「奇跡・超能力」「占い」「運命」「デジャヴ」の存在に対する確信度が高く、「お守り所持」や「願い事・祈りの経験」「おまじないの実行」の体験度が高いことから、自分の将来を支配する、自力の及ばない力の存在の認識であり、それらを非科学的方法で知ることへの願望が表出したものであると考えられる。

こうした傾向の背後には、社会に対する認識と科学に対する認識とが複雑に関与していることが、変数間の重回帰分析の結果から見いだされた。すなわち、超常力の存在については、自己の将来に対する否定的認識、科学に対する否定的認識が直接的に関与しており、非科学的方法による未来予知の可能性の認識には、科学に対する否定的認識、社会に対する肯定的認識が直接的に関与していることが見いだされた。また「異界肯定因子」への「科学観」の関与について見ると、科学の2面性の認識が異界という超常的世界の存在を否定させていることが明らかとなった。本研究での調査対象者の「科学観」の平均評定値を見ると、肯定的側面の平均評定値が2.57、否定的側面の平均評定値が3.66であり、女子青年層の科学観には、科学に対する不信や懐疑が生じており、そのことが超常現象に対する親和度を高めている可能性がある。また、社会に対する不安度も比較的高く、このことも超常現象への親和度に関与していると考えられる。しかし、その一方で、自己の将来に対しては必ずしも悲観的ではなく、「社会観」「科学観」が自己個人の問題と有機的に関連づけて認識されていないことが示唆されている。

以上のことは、社会や科学の今日的状況が危機的であり、その危機を自己に関わる問題として正確に認識することによって社会や科学に対する不信・不安が女子青年層に定着しているのではなく、むしろ、正確な情報や知識の不足に基づく状況認識の曖昧さが、上記のような否定的「ムード」を形成している可能性を示唆するものではないだろうか。本調査の結果見いだされた、超常現象に対する親和傾向が、社会・文化的に如何なる問題に発展していくのかは、今

後の重要な検討課題であると考えられるが、後に検討する「オウム真理教」に対する認識の健全な傾向から見て、重大な社会・文化的問題に直結する問題傾向であるとは考え難い。しかしその一方で、根拠の曖昧な、このようなムードが女子青年層に広がっていることは事実であると考えられる。こうしたムードへの対処としては、科学や社会に対する正確な認識を深め、それらと自己の生活との関連性を正しく認識するような、いわゆる「科学的態度」の学習が必要となると考えられる。

(2) 女子青年層の超常現象受容傾向とマスメディアとの関係について

本研究では、超常現象の受容傾向とマスメディアを中心とする女子青年層の情報環境との関連性を検討する端緒として、具体的事例、すなわち「オウム真理教事件」を取り上げ、それらに関連する諸事項への評価・態度とそれに対するマスメディアの影響について検討した。

「オウム真理教」および「オウム真理教事件」に対する関心度は高く、またそれらに対する評価も青年層特有のものではなく、きわめて常識的、一般的なものであった。「オウム真理教事件」は「オウム真理教」に対する評価を著しく損なうものであり、きわめて否定的な評価を定着させていることが確認された。しかし、特に注目すべきなのは、そうした「オウム真理教」に対する否定的評価が、マスメディアの影響を強く受けているという認識が、女子青年層に十分自覚されているということである。さらに、マスメディアによる「オウム真理教事件」の扱いに対する評価は概ね否定的であり、信頼性の低い、表面的なものであるとの評価がなされているにもかかわらず、そうした客観的認識を超えて、「オウム真理教」に対する恐怖はマスメディアの影響下で形成されている可能性が示唆されたことが重要である。すなわち、マスメディアによる情報は、その信頼性の如何にかかわらず、特定の事象に対してある一定のムードを強固に形成する力があることが示唆されるのである。女子青年層は、マスメディアが「オウム真理教事件」を明らかに視聴者の恐怖・不安を煽る演出のもとに報道していることを認識しながら、なおその影響を受けていることを自覚しているのである。このことは、女子青年層の超常現象に対する親和傾向の形成にマスメディアが深く関与している可能性をも間接的にはあるが示唆している。

本研究の調査資料は、女子青年層の超常現象の受容傾向にマスメディアがどのように関与しているかについての詳細な検討を行うには不足しているが、高視聴番組として、超常現象に関連するドラマや特集番組が青少年層に好評であるという現状を考慮に入れると、青少年層の非科学的志向の形成へのマスメディアの関与は否定できないのではないだろうか。そのこと自体が如何なる問題性を内包しているのかということについては、マスメディア論・情報環境論を展開する上で、今後の重大な課題であると考えられるが、敢えて仮説としての私見を述べるならば、社会の様々な諸相に対する客観的・現実的認識が欠如していることが、青少年層の超常現象に対する親和的態度の素地を用意し、そうしたムードの形成にマスメディアが関与しているのであれば、それは、マスメディアの本来の社会的機能としては後退していることを示す、

あるいは重大な否定的側面を内包したものであると考えることができるのではないだろうか。

引用文献

- Galtung, J. & Ruge, M. H. 1970 The structure of foreign news. In J. Tunstall (ed.), *Media sociology: A reader*. Constable. 259-298.
- 町沢静夫 1992 成熟できない若者たち 講談社.
- 松井 豊・福富 護・加藤千恵・上野行良・上瀬由美子・佐久間勲・上田康子 1994 高校生が神秘現象を信じる理由—現代高校生の生活意識(5)— 日本教育心理学会第36回総会発表論文集, 171.
- 美甘早苗・大倉恭輔・宮司政男 1992 Paranormal Beliefと性格特性の関連 第33回社会心理学会発表論文集, 354-357.
- 三井大相 1993 超常現象と青年の意識 東京経済大学人文自然科学論集, 95, 51-77.
- 西田公昭 1995 マインド・コントロールとは何か? 紀伊國屋書店.
- 西山 茂 1991 第4次新宗教ブームの背景 現代のエスプリ, 292, 34-43.
- 奥野卓司 1990 パソコン少年のコスモロジー 筑摩書房.
- 大村政男 1990 血液型と性格 福村書店.
- 桜井哲夫 1992 若者と視覚文化—コミュニケーション変容をめぐる— ボーダーレス化社会, 新曜社 13-37.
- 桜井哲夫 1994 メディア環境論 コミュニケーション科学, 1, 65-74.
- 妹尾栄一 1991 一九九〇年代の祈祷性精神病 現代のエスプリ, 292, 34-43.
- 汐見稔幸 1988 こどもたちの「不思議大好き!」志向 こどものしあわせ, 1988年11月臨時増刊号.
- 高橋啓介 1993 神なき世界と原理なき個人幻想 情況, 1993年1・2月号, 137-147.
- 詫摩武俊・松井 豊 1985 血液型ステレオタイプについて 東京都立大学人文学報, 172, 15-30.
- 辻敬一郎 1985 人間, その非特殊性 林部敬吉(編) 1985 人間論 酒井書店, 223-237.
- 都築 学 1993 大学生にみる現代の青年文化—宗教ブームと青年の意識 青年心理学研究, 5, 63-67.

付 記

- 1) 本研究は、愛知淑徳短期大学1995年度研究助成による助成研究である。
- 2) 本研究における調査結果の集計解析に当たり、愛知淑徳短期大学コミュニケーション学科 1994年度入学生、田中敬子氏のご協力を得た。記して感謝の意を表する。

マスメディア報道の受容に関する調査

お願い

本調査は、マスメディアによる、ある特定の問題に対する報道が、青年層にどのように受容され、評価されているかについて、集団を対象に実施される調査です。

本調査は無記名で実施され、回答は集団として処理されますので、みなさんの個人のデータが公表されたり、個人データとして利用されることはありません。各質問に対して、事実や感じたままをお答え下さるようお願いいたします。

回答方法

以下の各質問に対して、該当する回答の□に✓して下さい。また、には、適切な回答を自由に記入して下さい。

特に但し書きのない場合には、1項目のみを回答するようにして下さい。

何かご不明の点があれば、随時、調査者にご質問下さい。

愛知淑徳短期大学
コミュニケーション学科
高橋啓介
Tel: 052-781-1151 (ext:541)
Fax: 052-783-0073

I あなた自身についてお尋ねします。

Q1 性別 男 女

Q2 年齢 歳

Q3 あなたの専攻は 医学系 理学系 工学系 農学系 薬学系
法学系 経済学 文学系 教育学系
短期大学 専門学校 専攻:

Q4 あなたのお住まいの形態は 一人暮らし 家族と一緒に
その他

II あなたのメディア環境についてお尋ねします。

Q 1 自分専用のテレビを持っていますか。 はい いいえ

Q 2 1日の平均テレビ視聴時間はどれくらいですか(分でお答えください)。
約 分

Q 3 あなたが好んで見るテレビ番組の種類は(上位3つまで)。

- 報道(ニュース) 情報 ドキュメンタリー スポーツ バラエティ
音楽 クイズ ワイドショー ドラマ アニメ その他

Q 4-1 比較的定期的に購読する雑誌がありますか。 ある ない

Q 4-2 Q 4-1で「ある」と答えた方のみ回答して下さい。
その雑誌の種類は何ですか(上位3つまで)。

- 思想 政治・経済 読み物(文芸雑誌) 一般週刊誌 趣味
ファッション(女性週刊誌) 占い 漫画 その他

III あなたの神秘的現象に対する関心についてお尋ねします。

Q 1 奇跡とか超能力といわれるものに関心がありますか。

- 非常にある -- 多少はある -- あまりない -- 全くない

Q 2 以下の各項目について、どの程度信じますか(必ず全ての項目に回答して下さい)。

- | | |
|-----------|---|
| 1 神・仏 | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 2 奇跡・超能力 | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 3 占い | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 4 運命 | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 5 呪い・たたり | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 6 死後の世界 | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 7 前世 | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 8 幽体離脱 | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 9 デジャブ | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 10 霊感・霊能者 | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |
| 11 UFO | <input type="checkbox"/> 信じる -- <input type="checkbox"/> 多少は信じる -- <input type="checkbox"/> 信じたい -- <input type="checkbox"/> 信じない |

資料

Q3 以下の各項目について、あなた自身が経験したことがあるか否かをお答えください
(必ず全ての項目に回答して下さい)。

- | | | |
|-------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 1 お守りを持っている | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 2 願い事をしたり祈ったことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 3 占い師に占ってもらったことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 4 おまじないをしたことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 5 金縛りにあったことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 6 「虫の知らせ」を経験したことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 7 祈りが通じたり、占いが的中したことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 8 幽体離脱したことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 9 予言や心霊現象に関する本を買ったことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 10 新宗教から入信の勧誘を受けたことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 11 友人・知人に新宗教の信者がいる | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 12 自己開発セミナーに参加したことがある | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |

IV いわゆる「オウム真理教」事件に関する報道について、あなたのご意見をお尋ねします。

Q1 「オウム真理教」事件に関心がありますか。

- かなりある――多少ある――あまりない――全くない

Q2 「オウム真理教」事件に関する報道(テレビ・雑誌などによる)を見たり、読んだりしたことがありますか。

- 積極的に見たり読んだりした
多少は見たり読んだりした
あまり見たり読んだりしなかった
全く見たり読んだりしなかった

資料

Q3 「オウム真理教」事件に関する報道に対して、以下の各項目についてどの程度そう思いますか（必ず全ての項目に回答して下さい）。

- | | | | | |
|----------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 問題を混乱させている | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 2 不真面目である | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 3 興味深い | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 4 過熱しすぎである | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 5 不公平である | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 6 正確で信頼できる | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 7 視聴者の恐怖をあおり立てている | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 8 一過的で、問題を深く掘り下げていない | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 9 有効な情報を流している | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 10 社会的不安を増大させている | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |

Q4 「オウム真理教」に対するあなたの印象について、以下の各項目の程度を回答して下さい（必ず全ての項目に回答して下さい）。

- | | | | | |
|----------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 怖い | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 2 すばらしい | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 3 不気味 | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 4 共感できる | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 5 理解不能 | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 6 かわいそう | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 7 バカバカしい | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 8 どうでも良い | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |

Q5 IV-Q4での印象は「オウム真理教」事件関連の報道にどの程度影響されていると思いますか。

- かなり影響されている
 多少影響されている
 あまり影響されていない
 全く影響されていない

資料

V 社会的な事柄や個人的な事柄についての意見をいくつか取り上げました。それぞれの意見に対してあなたはどの程度賛成（反対）ですか（必ず全ての項目に回答して下さい）。

社会

- | | | | | |
|--------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 世の中、不合理なことが多すぎる | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 2 努力は必ず報われる | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 3 弱肉強食の社会だ | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 4 長い目で見れば社会は発展している | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |

科学

- | | | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 科学でも解明できないことがある | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 2 科学は万能である | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 3 科学の進歩が必ずしも人に幸福をもたらすわけではない | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 4 人類の発展は科学に支えられている | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |

個人生活

- | | | | | |
|-------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 自分の将来に不安を感じる | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 2 自分も社会に役立つことができる | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 3 自分の人生も先が見えている | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
| 4 自分の人生は希望に満ちている | <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> 多少そう思う | <input type="checkbox"/> あまりそう思わない | <input type="checkbox"/> そう思わない |

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

この調査について、お気づきの点がございましたら、以下の空欄にお書きいただければ幸いです。